



# 祭

小林 愛 雄 譯 歌

樂の音ちりきて 遠くに鐘鳴る、  
 風ふく宵なり 鳥もうたふに、鳥もうたふに、  
 琴の音唄ごゑ 谷より流れぬ、谷より流れぬ、  
 人みな祭に よろこひゆきつ、  
 われのみわが家に 夢なる想 夢なる想  
 人笑みたはれるを 悲哀胸おほふ、悲哀胸おほふ、  
 おく笛なり、かなたに  
 花嫁の群 寺院に急げり、  
 歎息まよふ、  
 なげかひ迷ふ あはれ寂しや、われや寂し、  
 あゝ君あらばよ、  
 あゝ君あらばよ、

# 御稜威

犬童 球 溪



一、か弱き國の爲めには、  
 忽行きて救ひ、  
 仇なす醜のいくさは、  
 忽討ちて懲らす。  
 攻むれば降り、戦へば勝つ。  
 國々爲めに恐れ、  
 民草爲めに打靡く。  
 嗚呼旭に輝やく武威、  
 四海に溢るゝ名譽。」  
 二、旭の旗のかけには、  
 轟く砲の音には、  
 攻むれば降り、戦へば勝つ。  
 は向ふ醜もあらず、  
 ひるまぬ敵もなしや。  
 山路も吾れは野原。  
 浪路も吾れは青疊。  
 嗚呼旭に輝やく武威、  
 四海に溢るゝ名譽。」